

会 工 同 窓 会 会 報

発 行 所

福島県会津若松市
徒之町1の37

発行人 吉田一栄

平成三年度総会

平成三年十一月十日

校 歌

一、嶺は秀づる磐梯山
水は湛ふる猪苗代
これぞ乾坤秀靈の
精気鍾り成る處
明治三十七春なれば
礎堅くきづかれて
星霜ここに幾かへり
平和の潮者を育みぬ
身には白虎の粹を享け
鶴を徽章に雄雄しくも
至誠勤勞一すぢに
進む健児の意氣高し
四、峙つ嶺は峻しくも
寄せくる波は高くとも
これ奮闘の活舞臺
これぞ我等の天地なる



創立九十周年に向かって

会工同窓会会長

吉田 一栄

不肖私も昭和五十四年に佐藤勝次氏の後任として会工同窓会会長に就任し月日の流れは早いもので、創立八十周年を祝し、このたびは、来年初立九十周年を迎えることとなりました。この間、同窓会各位の皆様には数々のご協力を賜り衷心より感謝申し上げます。つきましては、創立九十周年記念事業実行委員長の命を受け、目的達成のため

非力ながら努力しているところですが、しかしながらこの目的達成の為に、学校関係・関係企業所・同窓会・PTA各位の絶大なご支援とご協力がなければ到底かなうものではありません。

記念事業として

第一に、会工資料の整備で、会工は地場産業との深い結

ごあいさつ

— 実習棟の改築 —

県立会津工業高等学校校長

青 津 直

故郷の会津、猪苗代湖にも白鳥が渡来し、秋も深まるこの頃です。今年是不順な天候でしたが、会員の皆様方には益々ご健勝のこととご推察申し上げます。恒例の各地区会工会の支部総会も盛会裡に終了し、本日の同窓会総会も盛大に開催できますことは、誠に同慶に存じます。各支部からのご案内にも拘らず公務が重なり失礼しましたが東京会工会には参加させていただき種々ご懇談、先輩の皆様方の母校の先輩に託する夢と叱咤激励を賜わり有難うございました。また東京会工会結成八十周年の記念特集号を在校生、さらに関東地区就職者激励会の席で多くの後輩にまで贈りいただき重ねて御礼を申し上げます。

来年度は母校創立認可から数えて九十周年を迎えますが、記念事業としてトレーニングセンター建設、資

料館整備、記念誌発行等の計画を進めていたところであります。同窓生の皆様方の母校の教育活動へのご支援に心から感謝申し上げます。今年度は部活動の成果がめざましく、県高校総体で新体操、バドミントン、陸上、水泳の四種目が学校対抗優勝、ボクシングを加えて五つの部が全国大会に出場しております。平成七年の国体に向けた競技力向上の一環とする運動部指定の県の事業で、四部指定は本校のみであります。近畿会工会長で県人会副会長の若林精二郎氏からは、会津から甲子園へと力強い応援を賜っておりますが、夏の県大会で第一戦突破後の激励文を早速選手壮行会で披露しました。進優勝の学校には敗れましたがベストエイト進出、秋の新人大会では磐城高に快勝、田村高には惨敗しましたが、対戦高は県代表として東北大会に

出場しております。会津はどうしても冬季間の活動が制約され、筋力を維持できないハンディキャップがあります。そのためにトレーニングセンター完成後は、さらに一段の飛躍につながるものと期待いたしております。さて、長年にわたる施設面での懸念は第二体育館の建設、当面の急を要するところは新設された情報技術科実習棟の整備でありました。実習棟は閉鎖となつた繊維工業科の改築、あるいは木造講堂を取壊して新築する案など紆余曲折がありましたが、このたびの会報で、南二棟、三棟の鉄骨一階建てと二階建ての実習棟、さらに講堂を取壊して全面的な改築が二年計画で着工となり、これにより第二体育館の敷地も確保されることを報告できますことは、誠に喜びとするところであります。昭和六十一年に学科転換し

注できる環境作りのお手伝いとしての、体育トレーニングセンターの設置が、ぜひ必要と思われまふ。これを中心として目標募金額といたしました。この目的達成のため、出費多端のおり誠に恐縮に存じますが、募金の趣旨をご理解戴き、絶大なご協力ご援助を賜りますようお願い申し上げます。

劍道部

バスケット部

軟式庭球部

陸上競技部

バレー部

空手部

日はなが会の新六、辛とるく会てチ今。けがだ。こ区て、し生す。スう今数の、ら出いまのな後で会もは位標

目個人戦が行なわれたが惨敗に終わってしまった。この大会が終わって感じたことは、他校に比べて、技のスピードの違い、練習の大切さを感じた。今後、この大会のくやしさをバネにして来年のインターハイでは入賞できるようながんばりしたいと思います。現在二年生十二人、一年生一人で活動しています。来年一年生の入部を期待しながら近況を報告し部の紹介いたします。

卓球部

我が卓球部は、現在、二年生六名、一年生十名で、部長や先生を中心に日夜練習に励んでいます。そして今年も毎日練習をやってきました。合宿ではOBの人から教えてもらったり、他校へ遠征へ行って力をつけました。

もうすぐ新人戦です。県総体ではベスト8だったの、県の新人戦は、ベスト4入りをめざし、その他、個人ダブルスは、地区で上位入賞をめざし、多くの人が、新人戦県大会へ行けるように頑張りたいと思います。

会工卓球部はこれから、どんどん大きくなっていきます。先生方、また、OBのみなさん、これからも会工卓球部をよろしく願います。

弓道部

〈成績〉

団体男子
○県インターハイ3位
○東北高校総体出場
本年度は、昨年ほどの成績にはおぼろげな伸びが、県インターハイで3位に入賞するなど今後につながる成績でした。

現在の部員は、三年生がぬけ二年生8名、一年生10名の計18名で、高橋文彦先生と千葉聡先生の両顧問の



体操部

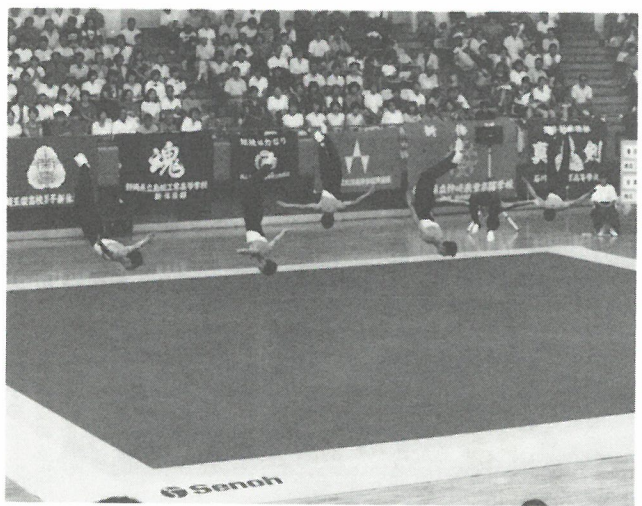
平成七年度に開催される福島県体の強化指定をうけて今年度は二年目、又三年生は総仕上げの年でもあった。

強化練習、試合、強化練習、試合と大変忙しいスケジュールでもあった。六月、秋田市 杜浦区高校体育大会では、第二位の好成績をおさめ、全国大会の出場権を得ました。

八月、静岡市 全国大会ではベストの状態であったものの、各県が非常にレベルが高く、上位入賞には至らなかった。

ミニ団体、東北総体の強化練習時には、佐藤福島県知事より激励訪問を受け、又中央講師として、国士館大学の朝倉正昭教授、地元講師、強化委員多数の指導のもと立派な成績をあげることができた。

団体体操 第二位
団体総合 第二位
個人棒 第一位
鈴木正幸
棍棒 第一位
星 文和
なわ 第三位
井上 祐
徒手 第三位
岩田邦社
団体は、東北から一



サッカー部

国体の成績は団体体操(六人編成)での演技と個人四種目の合計点で競われるものです。

団体は東北地区から一チームという厳しさもあり残念ながら団体には出場できなかった。

なかでも青森県の山田高校は全国大会でも優勝するチームで、その中で個人で二人優勝を勝ち取ったことは、三年間練習に励んだ成果と

三年生にとっては、東北はもとより全国各地で試合が出来、多くの友人と接し、触れ合い、高校生活の思い出をつくったと思います。

JRC

平成三年度本校JRCは、県連絡協議会の会長を引き受け、三年の電子科吉川浩三が会長として活躍しております。また、会津地区のJRC会長を兼任して、多忙な毎日を送っております。

彼は会長という職務から全国大会に参加する機会に恵まれた。三月末には全国のJRCの研修大会のスタディセンター(河口湖)に参加。また、十一月には全国JRC大会(御殿場市)に参加し活躍しています。

会長としては当然ですが、県大会(六月)の企画、総会(十一月)の企画、大変忙しい日々を過ごしています。

さて、JRCとかボランティア活動は周囲ではよく耳にしますが、残念ながら余り活発ではありません。

募金活動・施設訪問など活動を行っています。十分な活動とは思っていません。幸いにも今年度はトンガ王国より、女子生徒を招き国際交流を行いました。

山岳部

現在私達山岳部は、三年生三名、二年生九名、一年生十名の部員で活動に励んでいます。普段は、お城周辺のランニングや、羽黒神社での階段登り、その他サッカーやソフトなどジャンルを問わない多彩な活動内容を行っています。

山行については、四月末に新人歓迎登山を磐梯山で、五月には地区大会がまだ雪の残る会津駒ヶ岳で、また五月末に行われた県大会では、去年と同様優秀な成績を挙げ、残念ながらを体験させていた。今後とも力を入れて指導して行きたい。

今年の社会部の活動は、古墳時代のころの古墳について、戊辰戦争のころの若松市内の町並についてどのようになっていたかを調

吹奏楽委員会

吹奏楽委員会は、佐藤容子先生、芳賀一夫先生をはじめ、委員四十名で構成されており、全国大会出場を目標に、毎日励んでおります。

活動内容は、会津地区音楽発表会、校文化連盟による福島県音楽学習発表会、吹奏楽コンクール、定期演奏会、アンサンブルコンテスト、吹奏楽フェスティバルなどです。

県大会に出場することは出来ませんが、まだまだ県全体のレベルには達していない様です。会津地区の高校全てがその様です。今後ともレベルアップを計り、金賞をと思っています。

事務局だより



平成3年度第29回福島県吹奏楽コンクール

- 事業報告
- 平成三年一月二十五日(金) 会津学生会新年会
 - 五月十五日(水) 郡山地区学生会総会
 - 六月二日(日) 東海地区学生会総会
 - 六月二日(日) 半野教頭・斎藤教諭
 - 六月十六日(日) 近畿地区学生会総会
 - 六月十六日(日) 半野教頭・江花教諭
 - 六月二十三日(日) 青津校長・長久保教頭・小沼教諭
 - 八月二十九日(木) 坂下地区学生会総会
 - 半野・長久保教頭・進藤事務局長
 - 江花・斎藤・吉田・鷲山・小沼教諭
 - 十一月五日(火) 九十周年記念事業資金部会
 - 十一月十日(日) 九十周年記念事業役員会
 - 会工同窓会総会
 - 割烹 萬花楼

福島県立会津工業高等学校
創立九十周年記念行事並びに記念事業募金趣意書

謹啓、時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
日頃本校教育の発展に何かとご高配を賜り衷心より感謝申し上げます。

さて、本校は明治三十五年九月、県下唯一の工業学校として会津若松市徒之町の現在地に創立して以来、平成四年をもつて満九十年を迎えることとなります。その間一万九千八百余名に及ぶ有為な人材を社会に送り出して参りました。

地元企業はもとより、広く全国各地、さらには海外に工業技術者として活躍され社会に大いに貢献しておりますことは、誠に心強くご同慶に堪えない次第であります。

平成二年の九月以降、会工同窓会、同PTA及び学校関係者が協議をかさね、福島県立会津工業高等学校創立九十周年並びに本郷分校四十周年の記念行事と意義ある記念行事にすべく次の事業を行うことに決定しました。

第一は、『標本資料』の整備です。ご承知のとおり本校は、地場産業と深い結びつきを持ちつつ発展した経緯があり、そのために貴重な文化財を数多く保存しております。しかしながら時代の変遷と共に欠落、破損、痛みが見られ、今において、それらの補修・保存に努めなければ将来に禍根を残すことになるとの結論に達したからです。

第二は、『体育トレーニングセンター』及び『体育トレーニング器具』の設置による生徒の体力アップを図る計画です。今年度はバドミントン・陸上・新体操・水泳の各部がめざましい活躍をし、全国大会に出場している現状に鑑み、全校的に体育の質的向上を図ることによって、全国的に活躍できる選手の育成が急務と考えられるからです。

本校は創立当初から質実剛健の気風を旨とし知、徳、体の指導に努めて参りました。今回標本資料の整備、体育トレーニングセンター等の設置を図ることによって、さらに新たな人間教育の場として大いに役立つものと確信いたします。

以上の趣旨を十分にお汲み取り下さいましてご理解とご賛同を賜り、輝かしい創立九十周年に華を添えていただきたいと念願する次第です。つきましては、内外とも出費多端の折から、誠に恐縮に存じますが、なにとぞこの募金の趣旨をご了承下さいまして、絶大なるご協力とご援助賜りますよう、切にお願い申し上げます。

なお、ご芳志の寄付により建設いたしました施設等は、教育施設として福島県に教育採納いたします。

敬 具

平成三年十一月

福島県立会津工業高等学校創立九十周年
記念行事並びに記念事業実行委員会
委員会（会工同窓会長） 吉 田 一 栄
同窓生各位

会津工業高等学校創立九十周年
記念事業募金について

謹啓、時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、実行委員会に於いて慎重審議の結果、「趣意書」のとりの記念行事・記念事業を行うことを決定し、これを実現するため、四千万円の募金目標をかげ、同窓会を中心とした募金活動を展開することになりました。

つきましては、時節柄出費多端の折、誠に恐縮に存じますが、貴兄姉には左記により応分のご寄付を賜りたくお願い申し上げます。

なお、ご芳志の寄付により建設いたしました施設等は、教育施設として福島県に寄付採納いたします。

記

◎目標金額 四千万円

◎募金方法

一、同窓生（一口 五、〇〇〇円）

（一）昭和三十四年度卒業生まで……四口以上

（二）昭和三十五年度卒業生から

昭和五十四年度卒業生まで……三口以上

（三）昭和五十四年度から

平成二年度卒業生まで……一口以上

なお、この寄付金は、法人税法三十七条第三項第一号並びに所得税法第七十八条第二項第一号に規定する地方公共団体に対する寄付金として仙台国税局長の確認を得たものです。

〔平成三 付法 号 所得税 号〕

二、企 業……一口（三〇、〇〇〇円）以上

三、募金期間 平成三年十一月より平成四年九月三十日

四、納入方法 （一）同封の振替用紙をご利用ください。

（二）直接、学校へご持参されても結構です。

◎記念行事・記念事業の概要

一、収 入 募 金 同窓会員 二、五〇〇万円

寄 付 金 教 職 員 五〇〇万円

保 護 者 四五〇万円

企 業 篤 志 一、五〇〇万円

購 買 部 一〇〇〇万円

式 典 関 係 費 四五〇万円

記 念 誌 ・ 記 念 新 聞 四五〇万円

会 工 資 料 館 等 整 備 四五〇万円

ト レ ー ニ ン グ セ ン タ ー 二、〇〇〇万円

ト レ ー ニ ン グ 器 具 五〇〇万円

体 育 館 暗 幕 整 備 二五〇万円

平成三年十一月

福島県立会津工業高等学校創立九十周年記念事業実行委員長
福島県立会津工業高等学校同窓会長 吉 田 一 栄
同窓生各位

捜しています、会工90年を物語る資料

以下資料室に現存するものをお知らせします 本校職員会に提示したものです。

資料室収集一覧

◎書籍文献 写真等の資料

教務日誌 M37 38 39 40 41 42 43 44 45 T2 3 4 5 (以後S20頃まで不明)

組長任命簿 M45～T14 入学願書受付簿 S6 出欠表 T9 松江奨学賞関係書類 S17～57

県立会津工業学校一覧(学校要覧) S5 6 7 8 9 10 11 12 13 18 27 28 29 34 35 36 37 38 39 40 (欠番お持ちではありませんか)

記念誌 会工35年史(S16) 創立50周年(S29) 60 70 80 (S16は一冊です。もっとありませんか)

名簿創立50周年(S31) 60 70 80 雄飛・デザイン科の歩み(S56)

教科書・教材 景德鎮(M30) 漆樹栽培記(漆器徒弟学校印あり・他にはないか)

会工の教育 1(S49) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17

研究誌 工業基礎研究委員会紀要 テキスト レポートなど 修学旅行誌 S52 55

会工祭ポスター リーフレット S63 (校内で収集できるもの、もっと努力します)

図書館報 2(S28) 3 4 8 9 10 11 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 26 29 30 31 32 33 34 35 37 38 厚生だより 1(S32) 4 6～(S47)

ホームルーム(紙)誌 路(S26 C) H₂Oの仲間(S39 C) 日々(S53 C) たびだちのうた(S56 A) (まだまだ多くあると思います)

生徒会誌 福工誌(校友会)6(T11) 8 9 10 11 13 14 15

会工誌(校友会)17(S9) 18 19 20 21 26(S23校友会誌最終号)

鶴雲(生徒会)1(S37) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

(福工・会工誌の欠番はお持ちではありませんか)

会工高新聞 111(S57) 115 (新聞部にはあり)

文芸部誌 鶴友 17(S37) 19 21 24 25 29(同じく、お持ちではありませんか)

吹奏楽委員会 定演パンフレット 1(S56) 3 9(他の部活動の資料もあればと思います)

修養会誌 白陽 3(S36) 5 6 7 9 11

美修 6(S37) 7 11 12 13 16 17 19 21 22 23 24 26 27 28 30 31 33

鶴窓 13(S42) 18 19 20 21 23 25 26 27 卒業実験収録(S37)

応化 2(S42)

機友 7(S36) 9 11 12 14 15 16 18 19 20 21 22

磐友 1(S40) 2 3 4 5 6 7 8 10 10(最終号)

電友 7(S36) 9 10 13 17 21 22

電子 3(S42) 15 20 22

建友 S37 42 43 53 54 55 56 57 58 H1

(各修養会誌の欠番を求めます)

同窓会報 5(S4 創立25周年) 6 7 8 9 10 12 13 14 15 16 17 25(S35) 26 新聞タイプ S55 56 57 57(80周年) 58 H1 2

会津会工会報 2(S54) 3 東京会工会報 磐梯(S29) S52 54 56 H3

原町会工会報(同窓会報ありましたら御一報下さい。東京会工会誌はもっとあるのではないかと)

◎写真等多数ありますが未整理です。

但し90年の歴史を物語るにははなはだ不十分で、同窓の大諸兄のご協力が必要です。「県立工業学校一覧」(M37～)「記念誌」(S16～)「福工誌」 地方紙「会津日々」「会津日報」

などによればある程度収集できると思われます。(甚だ不十分です 参考になるものあればお知らせ下さい)

◎そのほか校内各所に置かれる校宝? 歴史的教材

福工旗 福工額 校長肖像写真(初代～) 坂内文石碑 鈴木善九郎碑・胸像 松江春次胸像 南方民族資料(鼈甲ほか) エベレスト鉱石 石製ローラ(S7 14) 砲弾 円形卓

子 椅子 飾り棚 漆工科作品教材(漆器徒弟学校～) 窯業科作品教材 繊維科作品教材 卒業記念アルバム 竹製物差し(若工焼印)

(本校を物語る資料、情報をおよせ下さい)

今、会工は

福島県立会津工業高等学校

教頭 半野 幸雄

同窓会報第十六号の発刊にあたって、皆様の母校「会工」の教育活動の一端をご報告申し上げます。

栄転

北原正三教頭→平工高校
長、安藤徹本郷分校教頭→
県立石川高校教頭、岩松俊
↓本郷分校、渡部光一→喜
女高校、浅和勝利・室井成
洋→喜工高校、運沼教章→
若商高校、穴沢良行→二本
松工高校、渡辺政武→安二
高校、増田実→浪江高校、
渡辺定行→久浜中、高橋弘
光→福工高校。
本校では、この薔薇色に
輝く二十一世紀に生きる若
者に「未来を約束する技術
と生きがい」の開発力の養
成をねらい、青津学校長を
頂点に置き、教職員一丸と
なっており、日頃から教育活動
に励んでおります。

転入者

西会津高校→半野幸雄教
頭、二本松工高校→長久保
秀雄教頭、矢吹高校→小針
信治本郷分校教頭、喜工高
校→佐藤善久、湖南高校→
小林昭二、清陵高校→東条
憲、二本松工高校→風間真
一、梁川高校→渡辺源孝、
坂下高校→末永充行、福大
院→猪井新一、新任→鈴木
秀孝、阿部光、菅野幸一の
各先生方。
その他に任用替となった
千葉聡、長谷沼徹、鈴木稔
三名の先生方、さらに、松
本利男、山本清三、保志和
吉、長嶺昌、橋本英雄、佐
藤進の先生方を講師として、
事務室では、響学校会津分
校→高橋明雄主査、新任清
野文範主事と合計二十四名
先生方をお迎えしました。

人事異動

二年度末県教職員の人事
異動により次の諸先生方を
お送りし、新たに先生方々
をお迎えしました。

退職

大山次教頭、山田清教諭、
松本利男教諭、鈴木栄作主
任実習講師、国分忠彦主査
任用替栄進本校勤務
千葉聡、長谷沼徹、鈴木稔

新入生

推薦入学は、目的意識が
明確で、適性があり、成績
優秀で人物が優れているこ
とを条件として、出身中学
校長の推薦を受けた者の中
から決定されます。
平成三年度は、機械、電
気、化学工学、電子科、建
築、情報技術、インテリ

「産業教育振興会
創立五十周年記念
工業教育フェア」

会工祭の一般公開の日と
重なりました十月二十七日
(日)に郡山開館を会場に、産
業教育振興会創立五十周年
記念工業教育フェアが開催
され、県内の工業高校にお
いて行なわれている日頃の
教育活動の生徒研究発表・
生徒体験発表・生徒作品展
示と三部の催しがもたれま
した。

「会工祭」

伝統の「会工祭」も時代
の変化に対応して様変わり
が前回から出始め、従来の
「科を中心とした実験・実
習の公開」から「生徒の自
主性尊重」が表面に出され
て、それに加えて生徒たち
の意識の変化などが、会工
祭企画そのものが「科中心
から生徒会中心へと変わっ
てきたことです。それに対
する反省と批判の中から、
本来の「会工祭」への帰属
意向が出されていたのです
が、今年度は、校舎の一部
改築という外的制約もあり
まして、前回は踏襲する「会
工祭」となりました。その
結果、模擬店が出たり、生
徒のバンド演奏が行なわれ
たり、各クラス対抗壁画展
など、他校の文化祭と似た
ような「会工祭」へと様変
わりした面もありました。
一方、各科が競いあひ会
工の「会工祭」らしい企画
が数多く行なわれたことは
新聞報道等で、すでにご存
じのことと思いますが、機
械科のゴーカート、金属の
鍛造や施盤技術の紹介、自
動車エンジン作動による熱
源を利用したラジウム卵
など・建築科の都庁舎模
型・情報技術科のセンサ
付模型自動車・電気・電子
科合作の真空管パワーア
ン・電気科の電力発電所か
ら家庭への配電模型・化学
工学科の粉石鹸製造・イン
テリア科の作品・セラミ
ック科の先端技術の紹介と
陶芸作品展示等々枚挙に暇
の無い程の展示や紹介がな
されたことをご報告申し上
げます。

「部活動」

昨年に引き続き、運動部の
活躍が目立ち、伝統を一層
積み重ねました。その主な
記録を紹介いたします。
県高校総体の学校対抗に
おいて総合優勝した部は、
陸上競技部十九年ぶりに二
位、バドミントン部十二年
連続で二十一回目、新体操
部十四年連続三十三度目、
水泳部は初優勝と、四部に
及びます。これは、県立高
等学校ではなかなか達成で
きな成績であり、快挙と
言えます。
ついで、ボクシング部第
二位、弓道部第三位と続い
ているこれらの部は、今後
が楽しみです。
自転車部は部に昇格前の同
好会ですが個人六位に入賞
しました。
野球部は、夏季の県大会
でベストエイトとなり、秋
季大会（新人戦）で会津地
区優勝と活躍は顕著でし
た。これから行なわれ
るスキーの高校総体、県
大会を経て昨年に続いて高
校総合体育大会会津地区杯
が期待できると思います。

「同窓会関係」

平成二年二月の福島県立
会津工業高等学校創立九十
周年・本郷分校四十周年記
念行事並びに記念事業実行

進路状況
泥

進路指導主事 古河 憲治

今年度の生徒の進路は九
月十六日より始った民間企
業の就職試験の可否が既に
発表された。好景気の求人
難のもとで、生徒の意志決
定も早くほぼ百パーセント
近く、民間企業の就職希望
者は就職先が内定した。公
務員希望者は試験が終わっ
てからの発表待ちである。
(一)進路指導者の場合は、一
校の大学が発表されたが、
これから大学受験は始める
専門専修学校も早いところ
発表されよう。就職受付が始
まったばかりである。
今年度の求人企業数は
は戦後最高の二千六百社に
達している。
七月一日から始った企業
の人事担当者の学校訪問の
対応には、我々進路指導課
職員だけでは間に合わない
多数の先生の助けを借りて
学校一丸となって対応して
何んとか求人に来られた
方々に迷惑をかけないで済
んだ様な状態であった。一
時期は三千社以上の求人さ
があるではないかと予想さ
れる程であったが、景気が
陰りが見えて来たとマスコ
ミが報道するようになると
求人の勢いは急速に衰えて
来た。日本経済の下降状態
は生徒の就職試験内定にも
影響が出始めた。
生徒の進路指導は一年生
より計画的、継続的に実施
され、自己理解、進路等に
は十分に指導されている。
就職の場合はどんな職種
が適しているか、企業の経
営規模は、さらに地元が県
外か等、何回かの父兄懇談
会を経て方向が決定される。
具体的な企業名は一部の生
徒を除いては、七月一日か
ら企業よりいただいた求人
票を詳細に検討して決定す
る。暑い夏に、しかも求人
企業数が今年の様に膨大な
数になると、就職企業の決

定にはかなりの時間がかか
った様である。

生徒の企業決定には父兄
の影響もかなり大きい。大
企業、超安定が父兄の方の
優秀企業像である。
生徒の企業の判定基準は
(一)給料が高い。
(二)週休二日制であり、しか
も土曜、日曜が休日であ
る。
(三)寮が冷暖房付きのワンル
ームマンションである。
(四)交替勤務がない。
求人難の時世であるので
企業は若い人を採用するた
めにこの様な条件を満足さ
せるため努力している。
この条件を満たす企業は
やはり県外の大企業である
今年度の県外、県内企業へ
の就職内定は県外企業へ就
職した生徒が県内企業へ就
職した生徒数を上回る。昨
年は県内企業へ就職した生
徒が多かったため、本校生
の希望が変ったのかと思っ
たが、本年もかなり県外内
定が多くなっている。
生徒の基本的な希望を満
たすのはやはり県外企業が
多いことであるが、さらに
インテリコ、セラミック
科、化学工学科等の生徒は
地元で履習した教科を生か
せることである、地元企業
への就職の場合は履習した
専門教科が違ふと言うこと
で生産に直接たずさわる技
能工の職種になつてしま
う場合が多い。ところが県
外企業であれば特殊である
ので、技術職で研究、開発
の仕事に従事出来る、それ
で半数以上の生徒が県外希
望となる。一方電気、電子
情報科の生徒は伝統的に一
流企業への指向が強い、日
立、東芝、某電気、その他
の各事業への就職が目立つ
県外希望者でも今年は東京
は嫌で、仙台へ希望する生

徒が目立った。東京の過密
は生徒にも考えさせるとこ
ろがある様である。しかし
生徒の将来への夢を満足さ
せてくれる企業はやはり県
外の大企業が多い。
県内就職の場合は地元会
津に残るのが県内就職者の
六割、残り四割の生徒は県
内中通り地方に誘置された
優良企業に就職している。
交通網が整備されたこと、
週休二日制で自宅に簡単に
帰れるので、父兄、生徒と
も地元企業と同じ様な気持
で就職出来る。
地元会津地区に就職した
生徒は大企業の誘置されて
いる若松市に集中している
若松近隣の市町村にある企
業にはほとんど就職者がな
い。喜多町、坂下町、猪
苗代町に就職者である。こ
れ等の地区に求人企業がな
いわけではない。生徒の企
業イメージとミスマッチの
結果だと思ふ。
今年度は求人企業が多く、
しかも生徒の対応も早く、
就職企業を早めに決断した
す。

ために十月末には民間企業
への就職はほぼ百パーセン
ト達成であった。
公務員の就職試験の可否
の発表はこれからである。
国家公務員三種の内定の
情報も入り、昨年並みの就
職が期待される。
進学希望者は大学、専門
専修学校を合せて卒業予定
者の二割強の生徒数である。
大学進学の場合、今年度は
戦後最高の受験生が居ると
予想され、かなりの狭き門
である。そんな厳しい年に
津に残るのが県内就職者の
六割、残り四割の生徒は県
内中通り地方に誘置された
優良企業に就職している。
交通網が整備されたこと、
週休二日制で自宅に簡単に
帰れるので、父兄、生徒と
も地元企業と同じ様な気持
で就職出来る。
地元会津地区に就職した
生徒は大企業の誘置されて
いる若松市に集中している
若松近隣の市町村にある企
業にはほとんど就職者がな
い。喜多町、坂下町、猪
苗代町に就職者である。こ
れ等の地区に求人企業がな
いわけではない。生徒の企
業イメージとミスマッチの
結果だと思ふ。
今年度は求人企業が多く、
しかも生徒の対応も早く、
就職企業を早めに決断した
す。

平成3年度	進路状況	11月1日現在
○ 三年生卒業予定者		353名 (368名)
○ 進学希望者		
大学	39名 (39名)	
専修専門学校	44名 (48名)	
○ 大学合格者	8名 (15名)	
○ 求人企業数	2561社 (2346社)	
○ 就職、自営希望者		
民間企業	243名 (257名)	県外122県内135)
公務員	19名 (14名)	
自営	8名	
願書発送	県内 121名	計267名 99%
	県外 146名	
応募者	内定者	不採用
県内 121名	110名 (137名)	9名 90.9
会津地区 63名	〔若松51名塩川 名磐梯6名その他6名〕	
県外 146名	130名 (129名)	13名 89.0
不採用企業	18社 (12社)	22名 (17名)
()	内の数字は昨年度のもの	